

大牟田市立倉永小学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市立倉永小学校区は、豊かな自然に恵まれ、福祉施設や歴史的な文化財、伝統工芸等、文化施設が数多く存在している。地域のつながりが強く公民館活動も盛んである。他の地域に比べて三世帯同居が多く、教育に関しても熱心である。

本校では、平成26年度に大牟田文化会館で行われた大牟田市ユネスコスクール子どもサミットで5年生が「倉永ふるさと再発見」(福祉・ボランティア)の発表を行った。

また、2月に行った学習発表会でもその取り組みを紹介し、全校児童のESDへの意識を高めた。本プロジェクトでは、校区にある「ひと・もの・こと」とのつながりを丁寧に探っていき、様々な史跡と出会い、人と出会い、校区のよさや地域の人達のがんばりに目を向けることでこれまで見過ごしてきた自分たちの町の大切な文化財を発見し、自分自身の参画のあり方を考えることができるようする。

これらの取組を通して、自分たちの住んでいる地域に誇りを持ち、町の発展に尽力している人々から学び、ともによりよい地域になるよう創造できる児童の育成をねらう。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

<プロジェクト名「地球みんなのためのプログラム」>

- (1) 1年生「みんなみんな大好きだよ」(福祉・ボランティア)
(生活科 9月～10月 10時間)
- (2) 2年生「レッツゴー!町たんけん」(環境)
(生活科 4月～5月 12時間)
- (3) 3年生「ワクワクドキドキお話探偵団」(読書活動)
(総合的な学習の時間 9月～3月 49時間)
- (4) 4年生「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」(福祉)
(総合的な学習の時間 10月～3月 28時間)
「夢に向かって」(キャリア教育)
(総合的な学習の時間 9月～10月 13時間)
- (5) 5年生「倉永ふるさと再発見」(福祉・ボランティア)
(総合的な学習の時間 9月～12月 23時間)
- (6) 6年生「倉永スマイルプロジェクト」(福祉・ボランティア)
(総合的な学習の時間 4月～12月 47時間)
「夢に向かって」(キャリア教育)
(総合的な学習の時間 1月～3月 23時間)

3 特徴的な活動事例

<6年生「倉永スマイルプロジェクト」(47時間)>

- (1) 目標
校区や学校の課題について調べ、地域の人たちと協力して、自分たちの校区や学校を住みやすいところにする活動を考え、取り組むことができる。
- (2) 展開
 - ①倉永校区や倉永小学校のよさや課題について話し合う。(2)
 - ②倉永校区のよさや課題について資料を使ったり、インタビューやアンケートをとったりして調べ、発表する。(12)

- 地域の方に倉永のよさや課題についてインタビューをする。
 - 大牟田のホームページの様々な資料を使って倉永のよさや課題について調べる。
 - 調べたことを表やグラフに表し、学年のみんなに発表する。
 - ③児童が出した倉永校区のよさや課題からいくつかのプロジェクトチームを作り、自分たちの校区や学校を住みやすいところにする活動計画を立て取り組む。(33)
 - 校区の史跡をまわる倉永スタンプラリーを縦割りグループで行う。
 - 社会福祉協議会の方と一緒に門松を作り、校区にある老人入所施設に配布する。
- (3) 子ども達の様子

○倉永スタンプラリーの取組

体育館で6年生がスタンプラリーの日程及びルール説明を行った後、グループごとに出発した。各グループには教師と保護者がつき、それぞれのグループの6年生が事前に考えたコースをまわった。各史跡には地域の方が立ち、子ども達に説明して頂いた。史跡ごとに子ども達が手作りしたスタンプが押され、子ども達は楽しんでコースをまわった。全校児童が校区の史跡に出会い、とても楽しい一日を過ごすことができた。



○門松づくりの取組

門松づくりの当日は、朝からコミュニティセンターの広場にたくさんの孟宗竹、真竹、南天、松、松ぼっくりが運ばれた。地域の方たちから準備をして頂いたので、2時間で150個もの門松ができあがった。午後から6つのグループに分かれ、地域の方たちとできあがった門松を校区にある施設に届けた。各施設で児童は門松の由来や地域の方たちの支援で門松を作ったこと、門松を飾って新年を迎えて欲しいということを話した。施設の方たちの中には涙を流して喜び、それを見た子ども達は自分たちが人のために活動する喜びや充実感を味わった。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・倉永スタンプラリーを行うために地域の方たちと何回も話し合いを重ねた。巡る史跡の数、案内板、史跡の説明板など細かい打ち合わせを行った。スタンプラリーを実施する前に学校職員が史跡を知る必要があるという地域の方の声を受けて、地域の人とともに史跡をまわった。それらを通して、地域の方たちの校区や学校に対する思いや願いを知ることができた。また、日々の教育活動の中に地域の人たちと連携をベースにしたESDを推進しようという共通理解を深めることができた。
- ・自分達の地域に誇りをもち、地域の人達から学び、ともによりよい地域になるように地域の人達と連携して取り組むことのよさや楽しさに気づくことができた。

○課題

- ・豊かな自然に恵まれ、福祉施設や歴史的な文化財、伝統工芸等、文化施設が数多くあること。地域のつながりが強く公民館活動が盛んであるという利点を踏まえ、特色のあるESDを計画する必要がある。ESDの充実を図り、児童に協力する態度やつながりを尊重する態度を育成していくことが大切である。
- ・地域・保護者との連携をさらに深め、中学校のESDの取り組みとのつながりも把握し、系統的に学習できるように中学校と連携していくことも今後の課題である。